

8 愛防第 7 号  
令和 8 年 4 月 24 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 1 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく  
願います。

記

1 情報の内容

**果樹カメムシ類の発生について**

2 対象害虫

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

3 対象作物

うめ、もも、びわ、キウイフルーツ、なし、すもも、かんきつ、かき等

4 発生状況

- (1) チャバネアオカメムシの越冬密度調査では、越冬が確認された地点率は 37.0%  
（平年 30.3%）、1 地点当たり越冬虫数は 1.26 頭（平年 0.96 頭）で平年並の越冬状  
況であったが、地域別では差が見られ、越冬量の多い地域もある（表 1）。
- (2) 予察灯による誘殺数はツヤアオカメムシの誘殺数が平年に比べて多い地点がある  
（表 2）。
- (3) 集合フェロモントラップでの誘殺数は、いずれもほぼ平年並である（県病虫害防  
除所 HP 参照）。
- (4) 令和 8 年 4 月 23 日発表の四国地方 1 か月予報では、気温は平年より高いとされ、  
例年より早く越冬成虫（7 月頃まで生存）の飛来が増加してくると予想される。

5 防除上の注意

- (1) もも、なしでは園内への飛来に注意し、早めに袋掛けを終える。
- (2) かんきつでは開花期頃から園内への飛来が予想され、大量飛来は落花(果)の被害が  
発生する恐れがあるので飛来に注意し防除を行う。かきにおいても同様に園地への  
飛来と被害には十分注意する。
- (3) 飛来時期、飛来量は地域、園地により異なるため、早期発見に努める。
- (4) 園地への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなる。
- (5) 山林に近い園地で被害が早く発生し、飛来量も多くなる傾向にある。
- (6) 園内に飛来した成虫は集合フェロモンを放出し、同種の成虫を引き寄せるため、  
飛来初期の薬剤防除を行う。
- (7) 飛来は日没 30 分後～3 時間後に多くなるので防除は夕方の実施が効果的である。
- (8) 飛来が続く場合は継続的な防除が必要であるが、ミカンハダニとカイガラムシ類  
の異常増殖（リサージェンス現象）が起こる可能性があるため、散布後の発生には  
注意する。
- (9) 防除に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数等）を遵守し、風向  
き、薬液の散布圧等に注意し、周辺作物への飛散防止、周辺環境（魚・蚕・ミツバ  
チなど）への配慮をする。

表1 果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬量調査結果

採取月	地域	調査地点数	越冬確認地点率 (%)	越冬虫数 (頭) / 地点	発生程度
R8.2月	東予	15	33.3	2.13	多
	中予	14	42.9	1.50	やや多
	南予	25	36.0	0.60	並
	全県	54	37.0	1.26	並
R7.2月	全県	40	0	0	
平年	全県	40	30.3	0.96	

表2 4月1～20日までの果樹カメムシ類累計誘殺数

調査地点	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	今年	平年	今年	平年	今年	平年
西条市丹原町	<b>2</b>	0.4	<b>0</b>	0.2	<b>0</b>	0
松山市上難波	<b>1</b>	2.6	<b>0</b>	0.1	<b>0</b>	0
松山市下伊台	<b>0</b>	0.3	<b>8</b>	0.6	<b>1</b>	0.1
松前町大間	<b>0</b>	0.1	<b>1</b>	0.3	<b>0</b>	0
久万高原町入野	<b>0</b>	0	<b>0</b>	0	<b>0</b>	0.1
西予市宇和	<b>1</b>	0.1	<b>0</b>	0	<b>0</b>	0
宇和島市吉田	<b>5</b>	0.6	<b>60</b>	3.7	<b>1</b>	0.5
鬼北町興野々	<b>1</b>	2.9	<b>1</b>	2.9	<b>0</b>	0.2
愛南町長月	<b>3</b>	1.5	<b>115</b>	10	<b>1</b>	0